

平成29年度第1回下水道技術開発会議 の内容確認

第1回会議で確認した平成29年度の実行方針 1/3

◆各「活動の柱」における平成29年度の実行方針は以下のとおり

活動の柱①「技術ニーズの把握と発信」、②「技術シーズの把握と発信」

- ◆ 技術ニーズ調査と技術提案の募集を一部見直しの上実施し、事業主体の技術ニーズや、研究開発の実施主体の技術シーズに関する情報を蓄積するとともに、傾向を分析
→ 第1回会議で結果を提示済
- ◆ 各種会議(地方下水道協会総会、地方ブロック主管課長会議・担当者会議等)の提案議題から技術的課題を収集・分析
→ 今回会議資料4
- ◆ 技術ニーズ調査結果の情報発信については、下水道技術開発レポートを予定
個別情報の公開についてはプロジェクトGAMでの検討状況(公開先・内容)を踏まえ、
公開方法を検討
→ 今回会議資料4

活動の柱③「ニーズとシーズの架け橋」

- ◆ 関連団体の取り組みについて情報収集しつつ、
技術情報や課題の集約・発信・意見交換の方法としてプロジェクトGAMとの連携を検討
→ 今回会議資料4

第1回会議で確認した平成29年度の取組方針 2/3

活動の柱④ 「国などの技術情報の共有(グローバルとローカルの架け橋(1))」

- ◆ B-DASH技術の普及展開状況についてとりまとめ、国交省ホームページ等で公表
→ 第1回会議で結果を提示済
- ◆ 日本下水道事業団、日本下水道新技術機構、日本下水道協会、その他の関係機関のウェブサイト等における情報源情報を収集し、集約の場としてプロジェクトGAMとの連携を検討
→ 今回会議資料4

活動の柱⑤ 「地方の技術開発・技術導入の支援(グローバルとローカルの架け橋(2))」

1) 情報、ノウハウの共有による技術導入支援

- ◆ B-DASH技術の普及展開状況についてとりまとめ、国交省ホームページ等で公表【再掲】
- ◆ B-DASH技術の普及展開先(導入検討都市含む)へのヒアリング等調査を実施し、導入経緯や導入上の課題等を明らかにし、更なる普及展開方策を検討
→ 今回会議資料4
- ◆ 技術開発・導入等の成果の都市間での共有の仕組みづくりについては、プロジェクトGAMとの連携を検討
→ 今回会議資料4
- ◆ 当会議の下に分科会を設置し、特定の課題について技術開発推進方策を検討
→ 今回会議資料4

第1回会議で確認した平成29年度の取組方針 3/3

活動の柱⑤ 「地方の技術開発・技術導入の支援(グローバルとローカルの架け橋(2))」
2) 小都市等の下水道事業をサポートする技術の開発・普及方策

- ◆ 小都市へのヒアリング等調査により、技術的課題を明らかにし、小都市への支援方策を検討
→ [今回会議資料4](#)

活動の柱⑥ 「技術開発の戦略・方針の提示」

- ◆ 引き続き技術ビジョンのフォローアップとして、提案技術の募集結果、社会的情勢の変化等を踏まえ、ロードマップの改定を検討
→ [ロードマップはH29.8に一部改定済](#)
→ [今回会議資料5](#)
- ◆ ロードマップ重点課題の選定、公表など、技術開発の各支援事業に対する全体的な方針等を提示
→ [ロードマップ重点課題はH29.8に公表済](#)
- ◆ B-DASH技術の普及展開先(導入検討都市含む)へのヒアリング等調査を実施し、導入経緯や導入上の課題等を明らかにし、更なる普及展開方策を検討【[再掲](#)】

平成29年度の取組方針に対する委員等からのご意見

活動の柱②「技術シーズの把握と発信」へのご意見

- 分野別に現状の下水道技術の体系的な整理を踏まえた新技術の整理があるといい
- 技術開発のシーズは下水道以外の分野の情報も幅広く集めるといい

活動の柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援」へのご意見

- ヒアリングの際は、現状のどのような仕組みに、更新でどのような新技術を導入できたという処理システムの背景を照会して欲しい
- 新技術の選定にあたっては、効率以外にコストという視点があり、LCCが高くなってしまうと自治体が採用できないため、コストの視点もヒアリングに入れていただきたい

活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」へのご意見

- 新下水道ビジョン加速戦略の動きも踏まえて、下水道技術ビジョンの必要な見直しを行う